

おいしい JAPAN（日本食の総合見本市）今年も開催 ～食と技術で見せる！魅せる！～

シンガポール事務所

開催期間	2015年10月22日（木）～24日（土）
開催場所	サンテック・シンガポール国際会議展示場
名称	Oishii Japan 2015
主催/後援	Oishii Japan 実行委員会 (OJ Events Pte Ltd)/ 農林水産省、観光庁、在シンガポール日本国大使館、日本貿易振興機構、 日本政府観光局、日本アセアンセンター、シンガポール政府観光局 (STB)、 (一社) 日本食品機械工業会等
来場者数	10,910人 (10月22、23日はビジネス関係者、24日は一般公開の合計)

開催年	2012年(第1回)	2013年(第2回)	2014年(第3回)	2015年(第4回)
来場者数	5,096人	5,782人	10,110人	10,910人

開催期間中来場者数の推移（出典：Oishii Japan ホームページ）

※開催日程は毎年3日間（2日間はビジネス向け、1日が一般向け）

〇4年連続、来場者数の増加

今年で4回目となる日本食の総合見本市「Oishii Japan 2015」が10月22日～24日の3日間、シンガポールで開催されました。参加者は42都道府県から294社・団体が出展し、過去最大規模となりました。

栃木県ブースの様子



〇食だけでなく、最新技術のトレンドをPR！

今年の「Oishii Japan」では、いくつかの特徴がみられ



た。

ました。一つは、人件費の高騰等による労働市場のひっ迫と、生産性向上が課題となっているシンガポールの食品関係者らに、多種多様な日本食に加え、食品の調理・加工機械を製造する日本企業も多く出展していたことです。この食の見本市が、ASEANのハブであるシンガポールで開催されたこともあり、出展企業にとっても、東南アジア展開を実現する場でもあるため、ベトナムやマレーシア、タイを始めとする周辺国からのバイヤー達の熱い視線に囲まれ、製品作りにも力が入っていました。

機械でどら焼きを焼くデモンストレーション

○視覚に訴える！見せ方（魅せ方）の工夫

もう一つは、会場全体のブースの作り方や商品のパッケージにも工夫が見られたことです。

茨城県のブースでは、お米の真空パックのパッケージに日



美しく可愛い和菓子

本の浮世絵を描き、来場者の興味関心をひいていました。

また、食べてしまうのがもったいないほどの、かわいらしさと季節感を表現した和菓子など、



浮世絵デザインのパッケージ

おいしいだけでなく視覚にも訴える商品が多く、日本の美意識を感じられる瞬間でした。

来場者たちは、話題性のある商品を見つけては、どんどん写真を取り、瞬時に Facebook やツイッターなどにアップしておりました。スマートフォンを片手に、あちらこちらで情報交換を行っている姿が印象的でした。

○愛知県知事がトップセールス

愛知県ブースでは、大村秀章愛知県知事が鶏卵や米、柿やメロンといった愛知県産の食をPRしました。県の名物であるきしめんの担当者は「日本で聞いていたことと実際に来て現地の方々の反応を見ることでは全然違う。つるっとした食感が好印象のようだ」と話し、愛知県産米の担当者は「シンガポールと日本では米の種類が違うが、来場者からは『もちりして美味しい』と言われた」と手応えを口にしていました。

愛知県では県産農林水産物の需要拡大を図るため、6次産業化による新たな商品の開発や海外の販路開拓につながる様々な取組を行っています。ASEAN市場最大の日本の食に特化した見本市である Oishii JAPAN への出展は、シンガポールひいてはその背後にある ASEAN 諸国に展開する確かな足がかりとなるはずです。

知事の高い知名度で出展者をアシスト



(堀江所長補佐 栃木県小山市派遣)

(佐々木所長補佐 札幌市派遣)